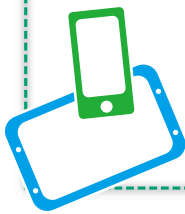


決算特別委員会の 討論(要旨)



令和6年決算特別委員会の映像は区議会ホームページでご覧いただけます。
右の2次元バーコードからスマートフォン・タブレットでも視聴できます。

※令和7年3月に開会予定の予算特別委員会についても、^{YouTube}YouTubeでインターネット生中継を行いますので、ぜひご覧ください。



※決算特別委員会の審査結果は8面に掲載しています。

足立区議会 公明党

討論者



太田 せいいち
委員

コロナ感染症が5類に移行する一方で著しく物価が上昇する情勢の中、令和5年度予算は「明日のあだちへ。安心と活力を」と銘打ち、新型コロナウイルス感染症対策を継続しながら、物価高騰に苦しむ区民生活を支えるための低所得世帯向け臨時給付事業や、区内経済を活性化するための消費喚起策を盛り込み実施された。

また、原油高・物価高騰対策として区民や事業者を支援するため、キャッシュレス決済還元事業の還元率アップや、小規模事業者経営改善補助金の拡充等、10回にわたる補正予算が組まれた。区民や事業者を守り支えることに力点を置いた各種事業は、我が党の意向も反映されており評価するものである。

今後は、昨年から続く物価高騰に対し、どこまでも区民に寄り添い、安心と活力を生み出す政策が求められる。しかしながら、小・中学校のタブレット端末等の更新等も順次控えており、物価高対策のための補正予算等を機動的に実施する必要性も考えると、基金の着実な積み上げは必要である。その上で、「誰一人取り残さない」理念のもと、区民により一層の安心と希望を届けられるよう施策の充実を望む。

今回の決算特別委員会において、我が党の各委員が質問した、介護人材の確保、不登校支援の充実、竹の塚のまちづくり、修学旅行の無償化、行政評価の取り組み、動物との共生社会の取り組み、地域交通の推進、学童保育の課題、災害時のトイレ対策、資源回収事業者との連携強化、高齢者見守り施策の充実、がん検診施策の充実、障がい福祉手当の充実等、区政全般にわたる多くの要望や提案は区民の切実なる声と捉え、今後の予算編成を含め反映するよう強く要望する。

足立区議会 自由民主党

討論者



伊藤 のぶゆき
委員

令和5年度当初予算は「明日のあだちへ。安心と活力を」と名付け、新型コロナウイルス感染症対策の継続と共に、コロナや物価高騰等の厳しい社会情勢の中であっても、区民生活に寄り添い、安心・安全を実感できることを目指した予算編成であった。

特に、切迫する大規模災害に備えた耐震改修・解体助成の拡充をはじめとする震災や火災等に強いまちづくりの推進や、未来ある子どもたちの学習環境を整え、経済的自立を後押しする「子ども・若者全力応援プラン」等を新たに打ち出すと共に、「SDGs 未来都市」の取り組み等、持続可能性を意識した内容であり、光熱費や食料品等の物価高騰の影響を受ける低所得世帯の負担軽減を図るための区独自の特別給付金の支給や、区内経済支援を目的とした商店街活動支援事業の拡充、小学校給食費無償化等、10次にわたる補正予算が編成された。

財政の健全化を維持しながら、限られた財源を有効に配分して、区民の負担に配慮することが不可欠であり、区民福祉向上に向けて、引き続き適正な行財政運営を推進していくことを要望する。

今後も、消防団格納庫の用地確保、選挙公報の音声ガイド実施、禁煙特定区域拡大の周知方法見直し、徘徊高齢者に対する広域連携、区公式インスタグラムの導入検討、あだちの輝くお店セレクションの更なる充実、レシートde商品券事務経費の精査、各学校の災害備蓄倉庫の整備、冬休みの書き初め等の伝統文化の教育、アーバンスポーツ施設の拡充、中長期の都市計画マネジメントの見直し、庁内縦割り業務の見直し、公園整備における区内花卉農家の活用、老朽危険家屋対策強化、硬式野球場の整備等、様々な提案及び要望事項を尊重し、その実現に向けて努力するよう強く要望する。

日本共産党 足立区議団

討論者



小林 ともよ
委員

令和5年度は、小・中学校及び私立幼稚園の給食費無償化、紙おむつの支給要件緩和、簡易トイレの避難所備蓄・配布等、わが党が繰り返し求めてきたものが実現した。しかし、決算剰余金は125億円、積立金は1千858億円に達し、利子割交付金や特別区税等も増額となり、区民の命と暮らしを守る財源が十分あることが明らかになった。

区のお金の使い方、施策の優先度には大きな問題があった。補助255号線や幻の西新井公園は進めると言い切り、すこやかプラザ あだちの外壁に凹凸の化粧板を入れるために3千600万円を追加し、綾瀬駅交通広場のバス停は所々にしか屋根をつけない。竹の塚第五公園はUR団地再生計画も示されていないのに、建て替え用地として提供するための廃止・撤去は認められない。また、ちなか木製ベンチや噴水型遊戯施設、ボール遊び可能な公園整備こそ優先すべきであり、区が全ての指定喫煙所に多額の税金を投入して維持する姿勢は改めるべきである。

生きがい奨励金復活には背を向け、中小企業支援ではハードルを下げる予定はないと拒否し、一冊100円の足立区の地図を無料で配布してほしいという区民の願いも拒否する姿勢を改めると共に、学校のPTAからの寄付のあり方の見直しを求める。

国民健康保険特別会計は、支払いに苦慮している区民から法令を超えるような取り立てをし、差押件数を増やす区の姿勢を改め、今からでも現行の保険証の廃止の延期を求める立場に立つことも強く求める。

介護保険特別会計は、19億円も余らせた結果を見れば、わが党が求めている保険料の引き下げは十分可能であった。

新年度予算の編成には、物価高騰に苦しむ区民に本気で寄り添う立場に立つことを強く求める。

是々非々の会 (維新・参政・無所属)

討論者



富田 けんたろう
委員

令和5年度は小学校給食費の無償化や物価高騰等の厳しい社会情勢に対応すべく、計10回にわたる補正予算が編成され、機動的かつ弾力的に予算執行が行われたことは評価する。

毎年度の歳出増や特別区の人材難が顕著な中で、持続可能な区政運営をすべく、既存事業の徹底した見直しと職員の意識改革・レベルアップが急務であることを冒頭に確認した上で、質問及び提案を行った。

具体的には、決算結果を次年度予算や政策により良く反映する仕組みづくり、基金の積極的な管理・運用による持続可能な財政運営、審議会等の徹底した公開や公文書の永久保存、職員のやりがいや向上心を刺激する評価制度の導入、学校教職員の多忙化対策、退職自衛官の更なる採用、福祉事務所のケースワーカー増員と専門資格取得の支援強化、ペットを同行しても安全な避難所体制の構築や、誰でもシェルターの整備、地域活性化を企図した地域通貨の導入、事業承継のトラブル根絶や魅力溢れる創業プランコンテストの提案、SDGsの観点から宅配ボックス設置の後押し、アーバンスポーツ施設の設置検討、国民健康保険料の収入未済や不能欠損を未然に防ぐ対策の強化等である。

また、優秀な職員が遺憾なく能力を発揮できる区役所を展望し、公益通報保護の徹底や、区独自の30分ルールの見直しについて確認や提案を行った。加えて、区民の誰もが納得のいくエビデンスに基づいた政策立案を希求し、レシートde商品券事業の抜本的見直しや、区公式キャラクターやスマホ向けアプリの統廃合についても指摘した。来年度の予算編成が佳境を迎える中、前例踏襲ではなく、改革マインドで見直しにあたることを期待する。

都民ファースト・ 無所属の会

討論者



中島 こういちろう
委員

令和5年度の当初予算は「明日のあだちへ。安心と活力を」と銘打ち、10年振りの都の首都直下地震等被害想定の見直しを受け、様々な災害対応策への予算や、地域経済活性化のための施策等、区民ニーズを盛り込み編成された予算であった。

令和5年度普通会計決算は特別区民税が13億円増加、財政調整交付金は都税収入の増加に伴い11億円の増となり、一般財源全体では28億円増額したものの、特定財源では新型コロナウイルス感染症関連の入院医療費やワクチン接種等の国庫支出金が12億円と大幅に減額となり、歳入全体では約93億円減額の3千316億円となった。経常収支比率は78.6%であり、令和4年度からは増加したが、80%以下の適正水準を維持した。

その中で、今回の質疑の中で提言した、偏在是正議論の訴求、男性育休の促進、子どもの口腔衛生ケア、公立保育園の建て替え、子どもを守るICT活用、こどもをまもろう110番の取り組み改善、本と図書館を更に好きにするための取り組み、プレミアム商品券デジタル化の促進、デマンド型交通の推進、子ども・子育て情報発信の取り組み、学校の暑さ対策、体育館の活用や朝の学校開放に関すること、レシートde商品券事業の推進、北千住駅周辺の禁煙特定区域の拡充、以上14項目について、しっかりと今後の区政運営に活かすことを要望する。

厳しい社会経済状況の中で行政に求められる政策課題は多様化、専門化、複雑化している。その中で良い政策を作ることと同時に、作った政策をどのように区民へ届けるのか。複合化するからこそ、難易度も上がっていると感じる。

自治体間競争が激しくなる中で、今までと同様にしっかりと区民の声を聴き力カタチにする区政運営を求め討論とする。